令和４年７月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第695号

林業福島

No. 695

7

2022

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■紫　陽　花　の　詩

森林・林業の再生と未来に向けた森づくりへの取組について

福島県森林組合連合会
代表理事会長　田　子　英　司

福島県森林組合連合会の業務運営につきましては、平素より、ご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故による森林整備の停滞やしいたけ原木の生産が困難な状況が継続しておりますが、関係機関の支援を受けつつ、系統森林組合では、森林・林業の再生・復興に向けて、鋭意、一丸となってその取組を進めているところであります。このような中、去る六月五日には、岸田総理、内堀知事に田村市都路町の広葉樹林再生事業の事業実施箇所をご視察いただき、本県が抱える課題、原木しいたけ栽培の現状や広葉樹再生に向けた取組について、ご理解をいただいたところです。

系統森林組合といたしましても、国、県、市町村のご支援を賜りながら、その取組を加速させてまいりたいと考えております。

一方、社会では、ＳＤＧｓの目標の達成、地球規模の気候変動への対応、二〇五〇年のカーボンニュートラルへの取組など、二酸化炭素の吸収源として森林・林業・木材産業への期待が高まっており、私どもといたしましては、この社会の要請に応えて行くことが大きな使命であると考えます。

本県の森林資源は、先人が営々として造成してきた人工林が成熟期に達しており「伐って、使って、植えて、育てる」資源の循環を進めることが、地球環境の保全に向け重要な取組であり、計画的な伐採による国産材の安定供給、製材加工技術の充実、公共建築や一般住宅での木材の利用促進など川上・川中・川下が連携して、素材生産から消費までのマーケティングインを構築し、どのような材を生産していくのか、伐採した森林をどのように造成していくのかを関係者が共に考えていく必要があると考えます。

このためには、森林・林業・木材産業を将来にわたって担える人材の確保が急務であり、本年度に開講した林業アカデミーふくしまの運営やその卒業生の活躍に大きな期待をよせており、その方々の職業として自信と誇りと夢をもって取り組める産業であることが重要であると考えます。

現実には、大きな課題も山積しておりますが、系統森林組合が一体となって具体的に一つずつ解決する取組を進めてまいりたいと考えております。

皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします。

《もくじ》

とびら
森林・林業の再生と未来に向けた森づくりへの取組について
福島県森林組合連合会
代表理事会長　田　子　英　司……1
第72回全国植樹祭　しが2022……2
県政コーナー
ふくしま森林クラウドの有効利用に向けた展開について
……3～4
優良団体・事業者等を表彰……5
熱中症を防ぎましょう……6
林業アカデミーふくしま研修日誌②……7
普及指導員通信……8
森連だより……9
支援センターだより……10
木の文化を育む㊵……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

第72回 全国植樹祭 しが2022

（公社）福島県森林・林業・緑化協会　緑化推進局

第72回全国植樹祭が６月５日（日）、滋賀県で開催されました。

今年の全国植樹祭は、滋賀県では47年ぶり２回目の開催となり、「木を植えよう　びわ湖も緑のしずくから」を大会テーマとして、甲賀市鹿深夢の森において式典が開催されました。

【イントロダクション】　森と湖に育まれた滋賀の豊かな自然･文化･歴史をナレーションと映像で紹介し、祭囃子のライブパフォーマンスが行われました。

【プロローグ】　創作劇「森林・びわ湖・人のハーモニー」に続き、大会テーマ、シンボルマーク、大会ポスター原画の感謝状贈呈、記念切手贈呈が行われました。

【記念式典】　天皇、皇后両陛下が前回に続きオンラインで式典にご臨席されました。皇居・御所の玄関から行事に出席されましたのは今回が初めてとなりました。

［開会のことば］、［三旗掲揚･国歌斉唱］、［主催者挨拶］の後の**［天皇陛下のおことば］**では、森林の重要性が今日ますます大きなものとなってることを話された後、**「こうした森林の大切さを思うとき、私たちにもたらされる自然の恵みに感謝するとともに、これからも健全な森林を育み、木々を木材として循環利用しながら、次の世代、またその次の世代へと引き継いでいくことは、私たちの果たすべき大切な使命であると考えます。本日表彰を受けられる方々を始め、日頃からそれぞれの地域において森林や緑づくりに尽力されている全国の皆さんに敬意を表し、そうした活動が、今後も多くの人々に支えられながら発展していくことを期待します。」**、さらに新型コロナウイルス感染症の影響に関し、**「森林に関わり、林業に携わる皆さんの御苦労もいかばかりかと思いますが、皆さんのたゆみない努力が実を結び、この困難を乗り越えていかれることを願っています。」**と述べられました。

［表彰］緑化功労者などへの感謝の表彰が行われ、本県からは「全日本学校関係緑化コンクール」の学校林等活動の部で会津若松市立湊小学校が国土緑化推進機構理事長賞を、学校環境緑化の部で会津若松市立大戸小学校が同じく国土緑化推進機構理事長賞を受賞しました。

［お手植え・お手播き］天皇皇后両陛下がそれぞれ３種のお手植えと２種のお手播きをされました。

○天皇陛下　お手植え：スギ（近江さわやか杉）、トチノキ、アカガシ
　　お手播き：クロマツ、コウヤマキ
○皇后陛下　お手植え：ヒノキ、イロハモミジ、エドヒガン
　　お手播き：ウツクシマツ、ホンシャクナゲ

［大会テーマの表現］「～ひとしずくから始まる～びわ湖水源の森林づくりへの誓い」を詩の朗読とパフォーマンスで披露されました。

［大会宣言］の後、［リレーセレモニー］で次期開催県の岩手県知事へ木製地球儀が手渡され、［閉会］となりました。

式典会場内の様子（入場ゲート、ウエルカムボード）
（ウッドブロックのタヌキ、出展ブース）

式典の様子

天皇・皇后両陛下によるお手植え・お手播き

記念植樹の様子（比叡山会場）

【エピローグ】　和太鼓とダンスチームによるパフォーマンスが披露された後、県内で活動している団体の中から「漁民の森」、「やまの健康」、「森のようちえん」、「滋賀ものづくりアカデミー」の活動状況と今後の抱負等の発表が行われ、式典が終了しました。

式典会場には「おもてなし広場」が設けられ、忍者ショーなどの公演、農林水産業や観光PR、物販など38ブースの出展があり、電気自動車からの一部給電やプラスチックゴミの削減など環境に配慮されておりました。

招待者約1,000名は、午前中に県内４箇所（鹿深夢の森、比叡山、みなくち子どもの森、市原にこにこ森）に分かれて記念植樹を行いました。

また、当日はサテライト会場３箇所、県民向けの植樹会場３箇所を設け、多くの方々が参加されておりました。

今回の全国植樹祭も式典参加者等を絞る規模縮小やYouTubeによるライブ配信など、コロナ禍に対応した開催となっておりました。

また、古くから琵琶湖の水の恩恵を受けている京都市及び大阪市において、開催前PRや湖で大量発生する水草から製造した土を植樹に使用するなど、県土の約１／６を占め、国内最大かつ世界的に珍しい古代湖である琵琶湖と周辺森林、人の生活との係わりが特に密接な滋賀県での全国植樹祭でした。

県政コーナー

ふくしま森林クラウドの有効利用に向けた展開について

福島県森林計画課

福島県の豊富な森林資源を活用し、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するためには、地域の森林資源や地形情報といった「森林情報」を効率的かつ正確に把握する必要があります。これまで県は、「森林情報」を「見える化」するツールとして森林ＧＩＳを運用してきました。しかし、システムの更新費用の確保や、データの継続的な更新、精度の確保、市町村や森林組合等との森林情報の共有手段などが課題としてありました。

そこで県は、既存の森林ＧＩＳ等の森林情報システムに比べ、より低コストで森林に関する情報の共有化や高度な利活用が可能となるクラウド技術を活用したシステム「ふくしま森林クラウド（以下「森林クラウド」という。）」の運用を開始しましたので、その内容について紹介します。

一　森林クラウドの概要

森林クラウドとは、これまで各機関（県、市町村、森林組合等）で管理していた森林情報を、クラウド上で一元的に管理するシステムです。また、ＧＩＳの機能を持ち、森林簿や森林計画図、林地台帳等の属性情報や地図情報を管理する機能を有しています。（図１、図２）

【主な機能】

①森林簿・森林計画図管理機能
②林地台帳管理機能
③伐採及び伐採後の造林届管理、オンライン申請機能
④施業履歴管理機能
⑤森林経営計画策定、認定機能
⑥林道・作業道・保安林等の管理機能

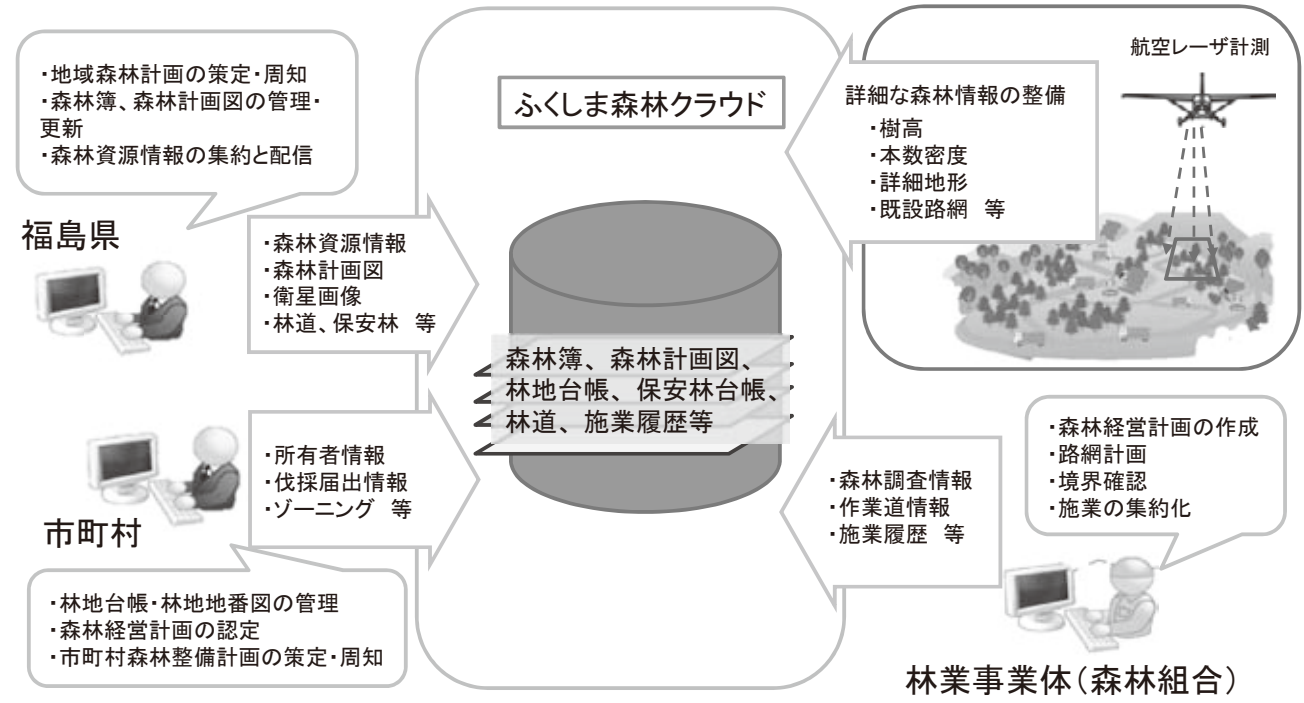
森林クラウドを活用した主な業務と導入の実施例（表１）

二　今後の森林クラウドの有効利用に向けた展開

現在、森林クラウドには、県内の五〇市町村、六森林組合が参加しています。今後は、林業事業体へも参加を呼びかけ、参加団体の拡大を図っていく予定です。

県、市町村、林業事業体等が森林情報を相互活用することにより、効率的かつ

図１．ふくしま森林クラウドの概要



実効性のある森林管理の推進やデータ精度の維持向上を図る必要があります。

①森林経営管理制度への支援

令和元年四月に施行された「森林経営管理制度」では、適切な経営管理が行われていない森林に対して「経営管理権集積計画」を策定する際に、対象となる森林所有者への意向調査を行う必要があります。意向調査には「林地台帳」、「森林簿情報」など、森林クラウドを活用して、森林現況を把握することで、意向調査を効率的に実施することができます。今後、森林クラウドを活用した事例紹介や自治体職員を対象とした研修等を行うことで森林クラウドの普及に取り組んでまいります。

図２．森林クラウド画面

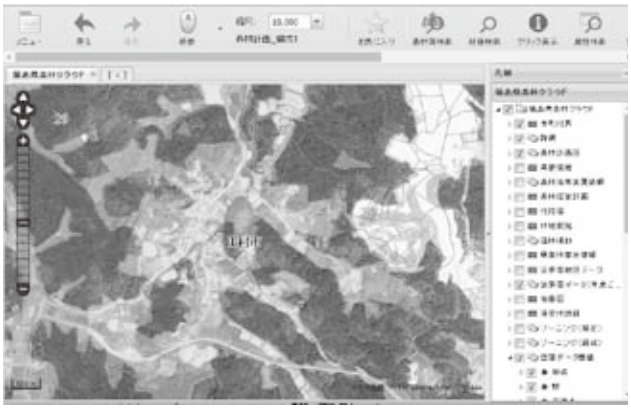


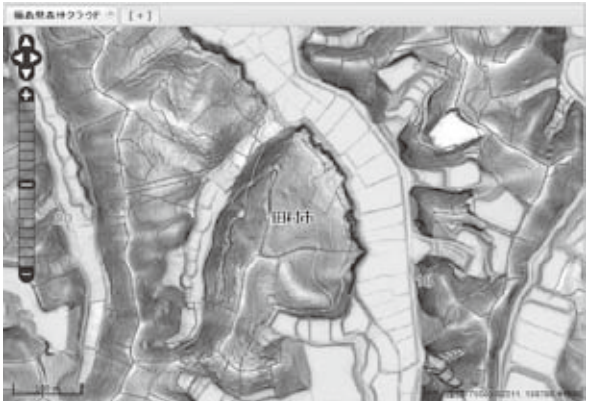
表１．機能　森林クラウドを活用した主な業務と導入の実施例

利用主体	対　象　業　務	実　　施　　例
県	森林簿・森林計画図の更新作業の省力化	森林簿や森林計画図の更新に必要な森林の現況情報（伐採や施業履歴、所有者情報など）を、電子データにより森林クラウド上で収集し、更新
	地域森林計画内容の策定・公開	計画内容（５条森林区域など）を森林クラウド上で公開
	行政が保有する森林情報・高精度データなどの共有	森林簿・計画図の他、空中写真や航空レーザ測量成果などを森林クラウド上で共有
市町村	林地台帳の管理・運用	林地台帳の更新を行った際の県との連携
	各種届出の承認など	森林の土地の所有者届、伐採届などの情報を森林クラウド上で収集、承認
	市町村森林整備計画の策定・公開	計画内容（ゾーニング、施業特定の範囲など）を森林クラウド上で公開
林業事業体等	森林情報の収集、施業情報の管理	モバイル端末を利用した現場での情報収集と事業所でのリアルタイム管理
	路網計画、施業の集約化など	森林クラウド上に共有された地形や森林の現況データを元に、最適な路網配置の検討、森林所有者への施業提案、森林経営計画の作成など

②森林情報を効果的に利活用する基盤づくり

森林の適切な管理と林業の活性化のためには、県・市町村・林業事業体等が保有する森林情報の共有と高度利活用が不可欠です。参加する様々な主体による情報共有体制の強化を図ることにより、森林の現況をより正確・詳細に把握することが可能となり、森林計画制度や施業の集約化における業務の効率化につながります。森林クラウドの利用者における役割分担など、森林情報を活用するうえでの基盤づくりに取り組んでまいります。

図３．詳細地形図



③詳細な森林情報の利活用

県では林業専用道路等の路網整備を推進していますが、路網整備の計画にあたっては、航空レーザ計測による森林情報（樹高、詳細地形等）を活用することが、省力化に繋がることから、県内二十七市町村で航空レーザ計測を実施し、活用しています。今後、それらの森林情報を森林クラウドに取り込み、森林経営計画の策定などにも活用するための仕組みづくりに取り組んでまいります。（図３）

三　終わりに

森林クラウドの運用が始まり、参加団体に広がりをみせているところですが、森林クラウドを導入すればすべてが解決するということではなく、いかに情報を蓄積し、精度を向上していくかが大切です。また、もう一つの課題は、データを扱うことができる人材の育成です。データを蓄積し、それを運用できるシステムを構築することも大切ですが、それを利用して現場で活用し、利益を得なければ意味がありません。今後、県は、森林クラウドの基盤整備と併せて、研修会の開催等による人材の育成にも取り組んでまいります。

森林土木工事・森林づくり活動の優良団体・事業者等を表彰

（公社）福島県森林・林業・緑化協会

令和四年五月二〇日（金）、当協会の今年度第一回役員会において、令和三年度施工優良森林土木工事等が下表のとおり決定されました。

今年度は昨年度同様、新型コロナウイルス感染防止の観点から表彰式は行わず、表彰状は後日、受賞された事業者・個人等へ直接送付させていただくことになりました。

優良森林土木工事等表彰

優良森林土木工事等表彰は、工事施工者の技術の向上と工事の安全施工の確保及び技術者の育成を図ることを目的に毎年行っているものです。表彰の対象となる工事は、地方林業協会から推薦のあった令和三年度施工の森林土木工事で、福島県と当協会で構成する表彰審査委員会の審査により選考されます。

令和三年度については、施工技術、工事の出来ばえ、工程管理、安全管理等が優れているとして、治山事業の部で八社、林道事業の部で四社、優秀工事監督者として十二人が受賞されました。

緑化功労者

緑化功労者は、緑化活動に永年にわたって貢献し、その功績が顕著であった方を表彰するものです。国見町の菅野和雄さんは、石母田財産区議会議員及び議長として、さらには「花と緑の育成会」会長として、森林環境等の管理に力を注いできた功績により、今年度受賞されました。

ふくしま森づくり大賞

ふくしま森づくり大賞は、森づくり活動や森林文化の継承を通して、緑豊かなふくしまの創造に貢献した優れた個人や団体を表彰するもので、ふくしま森づくり大賞審査会において、各市・地方緑化推進委員会、林業会議構成団体から推薦のあった方の中から選ばれます。

森づくり活動部門で、共有林を多くの人に親しんでいただけるよう、共同作業によって整備するなど交流事業に継続的に取り組んでいる国見町の桐目木共同山組合が受賞されました。

当協会は、県土の保全、地域の安全・安心を確保するために日々研鑽を積んでいる事業者の方々の功績を広く県民にお知らせするとともに、県民の森づくり活動への参加意識の高揚を図り、多様な主体による森づくり活動を促進するため、今後も表彰事業を続けてまいります。

1　林道維持管理コンクール

団体名	管理者	対象路線名
該当なし		

2　優良森林土木工事受賞者

(1)　治山事業の部

推薦協会	工事名（地区名）	工事施工者
県北	治山施設（古愛宕地区）	㈱TAKAGI工業
県中	治山施設（高野地区）	水谷工業㈱
県南	治山施設（大内地区）	㈱田村組
会津	地すべり防止（高森地区）	国土防災技術㈱福島支店
南会津	山地防災力強化（下郷北部地区）	会津法面㈱
相馬	防災林造成（鹿島地区）	後藤建設工業㈱
双葉	防災林造成（双葉地区）	酒井工業㈱
いわき	災害関連緊急治山（江尻地区）	クレハ建設㈱

(2)　林道事業の部

推薦協会	工事名（路線名）	工事施工者
県南	災害復旧（桜平犬神線）	福島県南土建工業㈱
会津	山のみち地域づくり交付金（北塩原・磐梯（喜多方）線）	㈱高橋建設
相馬	林業専用道（前乗線）	東日本緑化工業㈱
いわき	森林居住環境（永井川前線）	㈱大川原建設

3　優秀工事監督者受賞者

推薦協会	所属事業所	氏名
県北	㈱TAKAGI工業	清野　重二
県中	水谷工業㈱	矢内　伸一
県南	㈱田村組	深谷　剛
	福島県南土建工業㈱	池田　利宣
会津	国土防災技術㈱	森山　一久
	㈱高橋建設	菊地　覚治
南会津	会津法面㈱	貝沼　剛
相馬	後藤建設工業㈱	木村　壮太
	東日本緑化工業㈱	伊藤　裕亮
双葉	酒井工業㈱	菅野　長徳
いわき	クレハ建設㈱	鉄　拓海
	㈱大川原建設	田巻　昌浩

4　緑化功労者受賞者

市町村名	氏名
国見町	菅野　和雄

5　ふくしま森づくり大賞

表彰部門	市町村名	受賞者名
森づくり活動部門	国見町	桐目木共同山組合
森林文化振興部門	該当なし	

熱中症を防ぎましょう

福島労働局労働基準部健康安全課

福島県内の令和３年の熱中症による労働災害については、休業４日以上の死傷者数は９人、うち死亡者数は１人（令和２年は３人）と、２年連続で死亡災害が発生しています。これから暑くなる時期ですので、職場での熱中症予防に取り組みましょう。

令和３年福島県内の熱中症死亡災害事例

	発生月	被災者	発　生　状　況
1	８月	男　40歳代	工事現場の警備員として道路上で交通誘導業務を行っていたところ、路肩の法面の下にある側溝に転落し倒れているところを発見され、直ちに救急搬送されたが熱中症により死亡した。なお、被災者は当該作業に従事し始めて２日目であった。（気温 32.9℃　WBGT値 31.9℃）

STOP! 熱中症クールワークキャンペーン

実施期間　令和４年５月１日～９月30日（準備期間４月、重点取組期間７月）

期間ごとの実施事項に重点的に取り組みましょう。

キャンペーン期間（５月１日～９月30日）

【STEP １】

WBGT指数計でWBGT値を測りましょう。

【STEP ２】

事前に検討した事項を確実に実施するとともに、測定したWBGT値に応じて次の対策を取りましょう。

⑴　WBGT値を下げるための設備、休憩場所を設置し、休憩場所には氷、冷たいおしぼり等や飲料水、塩飴などを設置しましょう。通気性の良い服装を着用しましょう。

⑵　WBGT値が高いときは、単独作業を控え、WBGT値に応じて作業の中止、こまめに休憩をとるなどの工夫をしましょう。

⑶　暑さに慣れるまでの間は十分に休憩を取り、１週間程度かけて徐々に身体を慣らしましょう。

⑷　のどが渇いていなくても定期的に水分・塩分を取りましょう。

⑸　休憩時間にも体温を下げる工夫をしましょう。

⑹　①糖尿病　②高血圧症　③心疾患　④腎不全　⑤精神・神経関係の疾患
⑥広範囲の皮膚疾患　⑦感冒
⑧下痢などがあると熱中症にかかりやすくなるため、医師の意見をきいて人員配置を行いましょう。

⑺　前日の飲みすぎや寝不足はないか、当日は朝食をきちんととったかなど、日常の健康管理を行いましょう

⑻　管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。

【STEP ３】

管理者等は、WBGT値を確認し、巡視等により、次の事項を確認しましょう。

①WBGT値の低減対策の実施状況　②WBGT値に応じた作業計画
③各作業者の体調や暑熱順化の状況　④各作業者の水分や塩分の摂取状況　⑤作業の中止や中断の必要性

異常時の措置～少しでも異変を感じたら～

- **いったん作業を離れ、休憩する**
- **病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ**
- **病院へ運ぶまでは一人きりにしない**

重点取組期間（７月１日～７月31日）

⑴　特に梅雨明け直後は、WBGT値に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょう。

⑵　水分、塩分を積極的に取りましょう。

⑶　休憩中の状態の変化にも注意し、少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく、病院に搬送しましょう

林業アカデミーふくしま研修日誌②

福島県林業研究センター

就業前長期研修の開講から一ヶ月が経ちました。五月の研修の多くは、座学と実習がセットとなり、学んだことをすぐに現地で復習する機会が多い一ヶ月でした。

○五月の研修内容

「立木調査」の講座では、樹高や胸高直径を測定し、それを集計するための方法を学びました。森林の現況を知ることは、今後必要な施業内容や、施業を実施するための具体的な計画を立てるために不可欠です。

「救命訓練」の講座では、日本赤十字社福島県支部による救急員養成講習を受講し、三角巾による患部の固定などを繰り返し練習しました。最後に行われた筆記・実技試験では全員が合格し、赤十字救急法救急員の認定を受けました。

「安全の基礎」等の講座では、ＶＲシミュレーターや、人工的にキックバックや落枝を発生させる装置を用いて、作業中に発生しやすい事故を疑似体験し、安全な行動や装備を身に付けることの重要性を再確認しました。

「チェーンソー伐木造材技術」の講座では、チェーンソーの操作技術の向上を図るため、目標を定めての受け口作成や、水平切り、斜め切りなどの反復練習を行いました。研修生たちはお互いに動画を撮影し見返すなどして、積極的に技術の習熟に努めていました。

「桐・漆」の講座では、今回は福島県の特産のひとつである桐について学びました。座学の後は現場見学のため県立会津農林高等学校を訪問し、栽培技術や桐の特性等について理解を深めました。

「放射性物質対策」の講座では、森林と放射性物質に関する基礎知識や林内作業時に確認すべき事項等を座学で学んだほか、サーベイメータを用いた空間線量率測定や、樹木や土壌に含まれる放射性物質の経年調査等の手法について実習等を通して学びました。

木材関係の講座として**「木材流通概論」「木材加工」「原木市場」「木造建築」「木質バイオマス利用」**を一週間かけて受講しました。木材の構造や特性、流通の仕組み、部材への利活用、チップ等の規格とその理由等を、座学はもちろん、原木市場見学、集成材工場見学、木造建築物見学、チップ工場見学等を通して学びました。

集成材を活用した木造建築物を見学する研修生たち

研修生たちは、座学で学んだ内容を現地見学で活かすことで、より理解を深めていました。

「森林・林業の基礎」講座では、実習フィールドで土壌断面を作成しながら土壌の基礎的知識を学んだほか、教室では福島県の森林・林業の現状と課題をふまえ、グループワークにより意見交換を行いました。

「森林保護」講座では、ナラ枯れやマツ枯れといった病虫害の被害地や、間伐手遅れ林分の現地見学を行いました。森林被害の背景や、森林被害に伴って生じる問題について理解を深めました。

○研修生の感想　穂積直人さん

五月の研修では様々なことを学びました。また、実際に講義で学んだ事を見学・体験する事が多くできました。自分の中の興味や知識がさらに広がり、学ぶ事が嬉しく楽しいです。新生活にも慣れ始め、充実した日々を過ごす事ができています。

受講した中でも特に思い出深いのが、チェーンソーの実習です。初めて触れて、使って、手入れをしました。その時、さらなるやる気が芽生えると共に、全てにおいてやりがいを感じ、学ぶ事が本当に楽しくて仕方がありませんでした。そして私はこう思いました。「あっという間に終わってしまった入講してからの日々。少なく限られたこの長期研修という期間を一日一日大切に過ごしていくと共に、知識・技術を積み重ねていき、一人前になれるよう努力していこう」と。

最後に、このような研修の機会を与えてくださった全ての方々に感謝を申し上げます。そして残りの日々を精一杯頑張っていきたと思いますので、これからも宜しくお願いします。

伐倒方向の確認を受ける研修生

普及指導員通信

広葉樹材を活かした地域林業・木材産業の発展の取組について

福島県南会津農林事務所
林業普及指導員　豊　田　広　幸

１　はじめに

南会津地域の森林面積は21万８千ha、このうち民有林は10万１千ha、その約７割が広葉樹林です。かつては、優良広葉樹材の生産地として林産業が盛んでしたが、近年の広葉樹の素材生産量は約１万㎥で県全体の１割程度に留まっています。大径化した広葉樹材は、地元製材所や木工所向けに造材するとともに用材は県内の木材市場等へ出荷することがありますが、原木の大半はチップ用に出材されているのが現状です。

そのため、当地域では関係者が一体となって南会津地域の林業成長産業化構想を策定した際に広葉樹林の利活用促進に向けた取組を盛り込み、当事務所の複数の林業普及指導員がオブザーバーとして関わりながら、広葉樹材の高付加価値化による利活用促進に向けて取り組んでいます。

２　林業成長産業化地域創出モデル事業等による取組

林業成長産業化を進めるには、針葉樹林の対策に加え、当地域の強みである広葉樹林の価値を高める必要があるため、全国的な原木需給情報の収集や市場ニーズに応じた原木の造材を行うとともに、広葉樹材を使った製品開発等に取り組んでいます。

＜林業成長産業化推進会議等の設置＞

南会津地域では、南会津町が事業主体となって、素材生産業者、森林組合、NPO、製材所、木工所等及び森林管理署や農林事務所で構成する推進会議を設置し、専門的な取組は分科会等の中で検討しています。

⑴　広葉樹材供給ステーション

新たな販路開拓に繋げていくため、広葉樹の原木、挽き板、木製品を一元化して流通・販売させていく取組であり、特に原木の取扱について議論を重ねました。

先進的な取組を学ぶため、ノースジャパン素材流通協同組合と岩手県の広葉樹素材生産業者を招き、広葉樹をめぐる動向等の講演会の他、チップ工場の土場で南会津産のブナ・クリ・コナラ等を見てもらいました。その際、良質な原木があるとの評価を受け、盛岡市場へトライアル的な出荷販売を行ったところ、既存販売ルートよりも収益が良い結果となりました。

⑵　多樹種の広葉樹材を活かした製品化

当地域には、多種多様な広葉樹の特性を活かした加工技術を持つ木工所が複数あるため、分科会等の中でデザイナー等との連携により壁面装飾「ウッド・ウォール・アート」を製品化しました。南会津町の施設へ展示したほか、今年度はJR福島駅と郡山駅のエスパル構内に設置する計画です。今後も商業施設・宿泊施設等のリノベーションやインテリアとして様々な使い方等を提案していきます。

その他、木材担当の普及指導員の提案によりニュースポーツ「モルック・クッブ」の道具を南会津町産の森林認証材でつくり競技方法を普及するなど、子どもたちが遊べる身近な木製品も広めています。

ウッド・ウォール・アートの一例

南会津産広葉樹の品質勉強会

３　林業・木材産業の発展に向けて

広葉樹の用材は輸入材の減少等により、全国的な品不足感が見受けられるため生産量の増加を促しブランド力を高めたいところですが、秋以降の伐採適期は積雪や労働力等の課題があるため、引き続き、素材生産体制の強化や民国連携による流通等の効率化に向けた取組を考え、地域の方々と進めてまいります。

森連だより

第71回
通常総会開催

福島県森林組合連合会

当会は、第七一回通常総会を去る五月三〇日ホテル福島グリーンパレスにおいて開催いたしました。

富永盛彦副会長より開会を宣した後、田子英司代表理事会長の挨拶が行われました。

続いて、議長として水野郁夫ふくしま中央森林組合代表理事組合長が選出され、全十二議案が承認されました。

令和三年度は、「中期経営三ヵ年計画」が最終年度であったことから計画に沿って着実な実行確保を図るとともに、主要課題である「復興に向けた森林組合及び森林組合員の経営安定のための支援、着実な森林整備事業等の推進、木材安定供給体制の推進、新たな森林管理システム等への取組」と「組織の効率的な運営及び管理費の削減、コンプライアンスの徹底」の各項目に役職員が一丸となって事業に取り組んだ結果、年度末決算では、剰余金を計上することが出来ました。

令和四年度は、六年度までを期間とする「中期経営三ヵ年計画」を新たに策定し、森林組合及び森林組合員の経営の安定のため、全面的な支援を行うとともに組織等体制整備の取組を進めてまいります。

また、新たに策定した「福島県森林組合連合会ＪＦｏｒｅｓｔビジョン二〇三〇基本方針」において、当会が目指す十年後の夢や姿の達成のためには、会員組合の安定的な経営基盤の確立が必要であることから、会員指導に努めてまいります。

引き続き、系統森林組合と連携し、地域の林業経営の担い手としての役割を担うとともに、人材の確保・育成や原木の安定供給に努め、会員各位に信頼され、十分に応えることのできる組織として、職員の資格取得、技術力向上など資質向上を行っていくことを事業計画の総括として、部門毎に策定した事業計画が承認されました。

続いて、役員補選が行われ、総会後の理事会において、次の方々が新役員として決定しました。

代表理事専務　丹治　俊宏
理　　事　武藤　寛
（会津北部森林組合長）

表彰者は次のとおりです。

［表彰者名簿］

○令和三年度系統利用優良組合

販売部門　ふくしま中央森林組合
購買部門　西会津町森林組合
森林保険部門　東白川郡森林組合

○感謝表彰

秋元　公夫
（前福島県森林組合連合会　代表理事会長）
馬場　久一
（前福島県森林組合連合会　理事）
村田　久男
（前福島県森林組合連合会　理事）
井上　賢治
（前福島県森林組合連合会　理事）

永年勤続職員（勤続三〇年以上）

加藤　久生（ふくしま中央森林組合）
藤野智恵子（福島県森林組合連合会）

永年勤続職員（勤続二〇年以上）

菅野　康弘（ふくしま中央森林組合）
齋藤　秀彦（いわき市森林組合）
樋渡　則子（双葉地方森林組合）

永年勤続技術班員（勤続五年以上）

菅野　宇紀（福島県北森林組合）
佐川　幸一（西白河地方森林組合）

福島県林業労働力確保支援センターだより

林業就業者育成の取組について

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センター（以下「当センター」）では、事業体が林業の持続的かつ健全な発展を担う上で不可欠な、雇用管理改善や就業者確保・育成等の取組みを各種事業を通して支援しています。

ここでは、今年度これまでに取り組んだ研修等について紹介します。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、検温・体調確認・マスク着用・消毒・換気・人と人の距離の確保等を徹底して実施しています。

①「緑の雇用」現場技能者育成推進事業（フォレストワーカー研修）

認定林業事業体の新規就業者を対象とし、三年間で体系的に技能と知識の習得が得られるよう全国統一のカリキュラムと研修テキストのもと、集合研修と実地（ＯＪＴ）研修を実施中です。

今年度の研修生は、一年生が二四名、二年生が十六名、三年生が二〇名の計六〇名となっていて、前年度（五五名）から五名の増となっています。

●集合研修

集合研修は、各年の研修生が一箇所に集合し座学や実習、資格取得を行うものです。

今年度のカリキュラムは、一年生が二七日間、二年生が二四日間、三年生が二〇日間で、全体的な日程は、六月一日から始まり、十二月二日に終了する予定です。

六月末日までに終了した研修は、一年生では、林業の社会的責任と関係者との協働・現場作業の安全力・機器メンテナンス・獣害対策・健康管理・普通救命救急の学科、造林作業の実習、刈払機とチェーンソーの特別教育です。

二年生では、現場作業の改善力・機器メンテナンスの学科、造林作業の実習です。

三年生では、現場作業の総合力・森林施業の体系・事業所経営の学科、車両系建設機械運転技能講習です。

また、二・三年生は、林業アカデミーふくしま就業前長期研修生と合同日程で、走行集材機械・伐木等機械・簡易架線集材装置の運転に係る特別教育を受講しました。

代木等機械運転特別教育の受講状況

●実地（ＯＪＴ）研修

事業体が行う研修（最大八ヶ月間）で、六月一日から開始しています。

県内では、三四の認定事業体で行われています。

②林業アカデミーふくしま就業前長期研修講座「林業の仕事」・「労働災害対応」

当センターでは県からの受託事業で、森林作業技術の習得等に係る十五講座についての講師・実習地の調整ならびにインターンシップ受入れの調整を行っているところです。

さらに、研修講座の実施にも携わり、研修生が林業の仕事を実地に視察する「林業の仕事」を福島県森林組合連合会と共同で四月二〇日に行いました。

また、被災者発見・緊急連絡・救急搬送方法等を森林内で実習する「労働災害対応」を四月二二日に行いました。

労働災害対応の実習状況

③林業アカデミーふくしま短期研修講座「路網整備と作業システム（基礎）」

路網整備と作業システムに関する基礎的な知識・技術の習得を目的として、五月十九・二〇日の二日間で、県林業研究センター研修本館を会場に、参加者十八名で実施しました。

④森林・林業担い手育成事業

高校生等の職場体験として、県立岩瀬農業高校園芸科の三年生二八名を対象とし、五月三一日に刈払機の特別教育の受講を支援しました。

また、特に林業アカデミーふくしま就業前長期研修の講師を対象とし、「講師に必要なスキル習得・向上のための実践研修」（第二回）を六月二一・二二日の二日間で、県林業研究センター研修本館を会場に、参加者三〇名で実施しました。

◎今後の研修事業内容

今後も次のとおり様々な事業を予定しております。逐次広報を行いますので、就業者の技能向上による定着促進等のため、是非ご活用をお願いします。

①現場技能者キャリアアップ対策（フォレストリーダー研修）

認定林業事業体の就業経験五年以上の者を対象とし、効率的な現場作業を主導できる現場管理者を育成するための研修を実施します。

今年度の研修生は三三名の予定で、前年度（二四名）から九名の増となっています。

カリキュラムは、十六日間の座学と実習で、全体的な日程は、七月一日から始まり、八月三一日に終了する予定です。

②林業アカデミーふくしま短期研修講座「路網整備と作業システム（実践）」

路網整備と作業システムの構築に関する知識・技術の習得を目的として、四日間の現地実習を行います。

③森林・林業担い手育成事業

高校生等の職場体験、セミナーの開催、林業女子会への支援等を行います。

木の文化を育む㊵

木と人をつなぐ

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授　阿　部　恵利子
（株式会社オグラ）

○はじめに

私たちの暮らしは、自然の恵みに支えられています。かつては自然から得られる資源が地域の衣・食・住を支え、それらの資源を上手に循環し利用していました。地域の暮らしが持続可能であるために、自然を利用しながら管理する知恵や技術を地域で受け継いでいくこと、また自然に寄り添う暮らしを見直していくことが、持続可能な地域社会の実現に繋がります。

○木地師の精神を継承する

株式会社オグラ（南会津町）では、木材製材から家づくり、注文家具製作・販売、木工材料販売、木工講座開催など、幅広く木を取り扱っています。代表取締役 小椋敏光さんは木地師の家系で、代々伐り倒したブナや栃を手挽きロクロでお椀等に加工し、会津若松市内の漆器問屋に卸していたそうです。現在も自然と共存し、ともに生きていこうという〝木地師の精神〟を忠実に守り、自然を破壊しない木材の販売と住宅を建築しています。

○木を活かす

〝自然を破壊せずに、木を活かす〟小椋さんは現在、製材工場と木材・家具の小売り部門「きこりの店」や住宅建築の「幸林ホーム」で木を活かし、木の良さを人々に伝え続けています。無垢の木そのものを扱い、人体や環境に与える安全性に優れていること、製造時に必要とされるエネルギーや炭素放出量がかなり低いこと、さらに経年変化を楽しむことができることなど、木の良さを最大限に活かした暮らしを提案しています。無垢の木は耐久性があり、削りなおすこともできるため、手入れ次第で何年も、時には世代を超えて使うことができます。「何よりも無垢の木にはパワーがあり、製材されて板になってもその存在だけでエネルギーを放ちます。この生きている木のエネルギーが人を元気にし、毎日の生活を気持ちよく、豊かにしてくれるように思います。」と小椋さん。このパワーを少しでも多くの人に感じてもらい、生活の中に取り入れてほしいと願っています。

○長く使える家具

生命力に溢れた無垢の木の自然な質感を活かしてオリジナルの家具を製作しています。毎日触れて、心地よく嬉しくなる手触りを多くの人々に感じてもらえるよう、経験豊富な木工職人が、一つ一つ想いを込めて作ります。クルミ油などの植物油を塗り、自分でメンテナンスすることもできるため、丈夫で飽きがこず愛着の持てる家具として、経年変化を楽しみながら育てることができます。環境に負荷をかけない生産と表面を削りなおせば新品のようになる家具は、分解すれば再利用も可能です。

○製材見学会

広葉樹は、人が手を入れて育てた植林木はほとんどなく、自然に落ちた実が厳しい気象と闘いながら育ち大きくなります。台風の影響を受けたり、日光を求めてねじれたりした広葉樹の製材は、丸太のクセや木目を予想しながら、できるだけ良い板が採れるように挽いていきます。挽いた後は板の目を鑑賞しながら、用途の解説や板の即売会を行います。チェーンソーによる製材前の木づくりも見学できることから、森林や木に興味のある方に大変好評を得ており、木と人がつながる窓口にもなっています。

○まとめ

地域が持続可能であるためには、一人ひとりがライフスタイルを見直し、持続可能な形に変革していく必要があります。〝自然を破壊せずに、木を活かす〟ための知恵や技術を豊かな森や木の文化を育んできた先人に学び、次世代へ継承していくことが求められます。貴方も無垢の木のパワーを感じて、豊かな暮らしを実現してみませんか。

「製材見学会」の様子

木材市況

三月の原木市場への入荷量は、前月比九パーセント減（前年比六パーセント増）の二九、三五六立方メートルとなっている。

販売量は、前月比九パーセント減（前年比五パーセント増）の二九、三七四立方メートルとなっている。

四月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2022年４月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	10 (10～10)	△1	(0～ 0)		11 (11～11)	0	10 (10～11)	△1
		10～14		並	スギ	17 (17～17)	0	(0～ 0)		16 (14～18)	0	16 (14～18)	△1
	中	14～22	3.00	並	スギ	18 (16～19)	0	15 (15～15)	3	17 (16～18)	0	17 (15～19)	0
				並	ヒノキ	19 (19～19)	△3	(0～ 0)		27 (23～30)	△1	24 (19～30)	△1
			6.00	並	スギ	20 (17～22)	0	12 (12～12)	2	21 (21～21)	0	19 (12～22)	1
				並	ヒノキ	30 (30～30)	2	(0～ 0)		30 (30～30)	△2	30 (30～30)	1
		20～28	3.65	並	スギ	16 (15～16)	0	14 (12～15)	2	15 (13～17)	△1	15 (12～17)	1
			4.00	並	スギ	15 (14～16)	0	12 (12～13)	0	16 (13～18)	0	15 (12～18)	1
				並	アカマツ	14 (12～17)	1	(0～ 0)		11 (10～12)	0	13 (10～17)	1
			1.80	並	アカマツ	13 (11～15)	4	(0～ 0)		9 (9～10)	0	11 (9～15)	2
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	(0～ 0)		(0～ 0)		38 (38～38)	0	38 (38～38)	0
				並	米マツ	(0～ 0)		(0～ 0)		38 (38～38)	0	38 (38～38)	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		34 (34～34)	0	34 (34～34)	0
			4.00	並	アカマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		34 (34～34)	0	34 (34～34)	0
				並	カラマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		34 (34～34)	0	34 (34～34)	0
パルプ用材				並	マツ	(0～ 0)		(0～ 0)		(0～ 0)		(0～ 0)	
				並	広葉樹	(0～ 0)		(0～ 0)		(0～ 0)		(0～ 0)	

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	0 (0～ 0)	0	7 (6～ 8)	0
	13～14		並	カラマツ	0 (0～ 0)	0	8 (7～ 8)	0
	16以上		並	カラマツ	22 (21～22)	22	12 (11～14)	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

南湖公園と南湖森林公園

県南農林事務所　黒澤文彦

週末は運動不足解消のため、自宅から数キロメートルのところにある南湖公園と南湖森林公園まで歩いていき、公園内を散歩することにしています。

南湖公園は日本最古の公園と言われており、十二代白河藩主・松平定信（楽翁公）が「大沼」と呼ばれていた湿地帯に堤を作って水を貯め、庭園の要素を取り入れて享和元年（一八〇一年）に築造した場所とのこと。湖の周りをぐるりと歩くと、立派な赤松の木や鳥を眺めながら散歩することができます。

南湖公園の隣にある南湖森林公園は、気軽に訪れることができる里山です。林内の遊歩道はとてもきれいに整備されていて歩きやすく、休日に自然の中で少し休むにはちょうど良いところだと思います。

県南方部には四月に赴任したばかりであり、まだ南湖ぐらいしか行ったことがありませんが、今後歴史を勉強しつつ様々な場所を訪れてみたいと思います。

南湖公園を歩く

はなしのひろば

往　来

家の前の往来を「物売りの声」が行き来していた時代があった。夏になると、風鈴売りは、屋台にたくさんの風鈴を下げて売りに来ていた。屋台を引くたびに、また、夏のありなしの風にも色々な音色が一斉に交じり合って聞こえてきた。また、アイス売りは、自転車の荷台の冷凍容器にミルクアイスを入れ「アイス」と書いた旗をたて、汗をかきながら自転車をこいできていた。シジミ売りや金魚売りも来て「きんぎょ～え　きんぎょ」という抑揚のある声が響いていたが、豆腐売りは、いつの間にか物売りの声からラッパの音に替わっていた。そして、ラッパの音が響いてくるともう夕刻だった。今でいう「移動販売」だが、あの時代を反映していたような売り口だった。

しかし、風鈴や金魚の需要がそれほどあったのだろうか、と今にして思うが、いやいや、そうではなく、物売りの声と一緒に、屋台や自転車で夏の風情も運んでくれていたに違いない。自転車に乗り、屋台を引く物売りの人達も、私達の暮らしもほぼ人海戦術の時代だった。そして、物売りの声は、だいたいいつも同じ時間を教えてくれていた。

あの時代も今のこの時代もどちらも一概に「いい時代だね」とは言えないが、あの時代には、人の営みの後ろから、ゆったりと時間がついてくるような暮らしぶりだった。

暑さでむせかえる今のコンクリートの往来を眺めながら、行き来していたあの「物売りの声の風情」が、とても幸せな、夏の記憶に思えてくるのである。

（都）

表紙の写真

「紫陽花の詩」

第36回ふくしま緑の写真コンクール　金賞

受賞者　小柳光市さん（郡山市）

撮影場所：郡山市

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会

発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　飯沼　隆　宏

陽光社印刷株式会社
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

第19回ふくしま森林・林業写真コンクール 作品募集

森林の大切さとそれを支える林業の重要性を県内外に広く発信するため、
森林・木材との関わりや森林整備作業などをテーマにした作品を募集しています。

１　テ　ー　マ

下刈・間伐等の森林整備作業、木材の利用、特用林産物（炭焼き、きのこ栽培、漆等）、里山風景、森林レクリエーションなど福島県内の森林・林業に関するもの。

２　応 募 資 格

アマチュアで、作品は福島県内で撮影した自作の未発表の作品

なお、特別賞として高校生以下の部を設けています。

３　作品サイズ

カラープリント、四ツ切・ワイド四ツ切（デジタル可）

４　応 募 締 切

令和４年９月20日（火）（当日消印有効）

５　お問い合わせ先

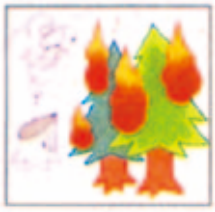
公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
企画管理室（TEL 024-573-0235）

作品応募の申込書は、当協会のホームページ（https://www.fukurin-net.jp/）より、ダウンロードできます。

第18回最優秀賞
（県知事賞）
「里山の守り人」

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（ 仙台支店 ） 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
（ 本社 ・ 工場 ） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（ 支　　店 ） 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島 七月号 通巻第六九五号
令和四年七月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 飯沼 隆宏
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一一〇円（税込）
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

いざという時、あなたの備えは万全ですか？
福島ミドリ安全の防災対策
企業防災のご提案
保管スペースのご提案
災害時のゴミ対策

その日を恐れるのではなく、その日に備える

福島ミドリ安全株式会社
代表取締役社長 白石昇央
【本社】〒963−8550 福島県郡山市桑野4−1−22
TEL.024−923−5178・FAX.024−923−5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp

ZENOAH®
人と共に 緑と共に

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1